

ゼロカーボンシティ宣言

～2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて～

近年、世界各地で猛暑や豪雨被害など地球温暖化が要因とみられる大規模災害が多発しており、今後も干ばつや海面上昇、農業生産や水資源への影響など、もはや「気候危機」と言うべき深刻な状況にあります。我が国においても例外ではなく、これまでに経験したことのない豪雨や台風等により甚大な被害が発生しています。

こうした状況を踏まえ、2015年に合意されたパリ協定では「産業革命以前と比較して世界の平均気温上昇幅を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。その後、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では「気温上昇幅を2度よりリスクの低い1.5度に抑えるためには、2050年までに、CO₂(二酸化炭素)の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。

鞍手町では、将来にわたって町民が豊かな自然の中で生きる喜びを感じ、健康で安心して暮らすことができる環境を次世代に引き継ぐため、町民や事業者の皆様と協働で地球温暖化対策を積極的に推進し、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて、継続して取り組むことを宣言します。

令和3年3月3日

鞍手町長 岡崎邦博